

新年を迎えて

2022 年は手探りしながら活動再開してきた年でした。さらに 2023 年へと活動を展望していきます。

IFCC は活動開始して 36 年目を迎えることになりました。2022 年はコロナ禍も終息しない中で、事務所の移転や諸活動の再開などめまぐるしい 1 年でしたが、なんとか新年を迎えることになりました。

新年にあたり、皆様のご協賛ご協力に謹んで感謝申し上げます。

一方、「戦争」が世界で喧伝され、「戦争」を金科玉条にしてすべてがまかり通る「世」が作り出され「軍拡増税」「原発再稼働」も堂々と免罪されていくような 2022 年でした。



上：3 年ぶりに再開されたベトナムアンアンプルチャリティーコンサートで、元気に再会を果たしたボンセン歌舞団、生命線である専属バスの新宮さん、全公演帯同の音響照明会社ラン・ワールドの皆さん。

下：初めて実現した京都での公演を紹介する京都新聞の記事 (2022/10/15)

そのなかで

●IFCC 国際友好文化センターは

・3 年ぶりにベトナム戦争枯葉剤爆弾被害者支援のためのベトナムアンアンプルチャリティーコンサートを実施してきました。2022 年 10 月 8 日～26 日、西日本中心に 9 回のコンサート、3 回の文化交流を行い、2 年あまりのコロナ禍での自粛もあってか、またアンアンプルメンバーの専門的技量もあってか、多くの会場で感動を呼ぶコンサートとなりました。

2023 年は日越外交関係樹立 50 周年の年でもありますので、何とか 2023 年秋のコンサートへ繋げたいと思います。

・IFCC が長年続けてきた中国での「侵略を記憶し語り継ぐ平和の旅」それを引き継いだ「村山談話を継承する平和の旅」も、条件が整えば再開したいものですが見通しがたない状況です。

●NPO 日本ベトナム平和友好連絡会議 (JVPF) は

・ベトナム北部・ハザン省で日越友好植林事業を開始することになり、2022 年秋から準備をはじめ、日中植林・植樹国際連帯事業 (第三国) の助成を得て、2023 年度実施に至りました。

・北部ハザン省の少数民族寄宿中学校で 40 人に奨学金支援 (180 ドル×40 人≒772,587 円) が 2022 年 1 月実施されました。また南部ラムドン省の少数民族寄宿高校で 20 人に奨学金支援

枯れ葉剤被害、風化させない

歌舞団招き、京都初 伏見で20日 チャリティー公演



2019年10月に埼玉県で行われたベトナムの枯れ葉剤被害者支援のコンサートの様子



ベトナム戦争で米軍が散布した枯れ葉剤の被害者が今も残ることを知ってほしい」と訴える。

主催する東京都のNPO法人「日本ベトナム平和友好連絡会議 (JVPF)」は1996年から2019年まで計4回、関連団体と一緒に全国で支援コンサートを開いてきた。これまでに集まった収益金約3600万円を活用し、枯れ葉剤の影響とみられる障害のある人のリハビリ施設や貧困世帯向けの家屋を建設。被害の実態を伝えるDVDの制作にも取り組んできた。

タイオキシンを含んだ枯れ葉剤の影響調査も続けており、ベトナム戦争の終結から50年近くたった今も、孫やひ孫世代に水頭症や全盲などの障害が及んでいるという。JVPFの副理事長の鎌田篤則さん(73)は「日本では(結合双生児の)『ベトちゃん、トクちゃん』の被害が知られるが、枯れ葉剤の問題は終わっていない。決して風化させてはいけない」と語る。

コンサートは新型コロナウイルス禍で途絶えていたが3年ぶりに復活する。10月中旬に初となる京都をはじめ、福岡や奈良など国内9市町で順次、開く。海外公演も行つたベトナムの国立ボクセン歌舞団の選抜グループが来日し、伝統的少数民族音楽を披露するほか、在日コリアンでつくる京都や大阪、兵庫の朝鮮歌舞団も出演する。

京都公演は20日午後7時から。全席自由席で前売り3千円、当日3500円。問い合わせはJVPF担当者メール myuanyangong@gmail.com (中塩路良平)

ベトナム戦争で米軍散布

(300,000円 鹿児島 JVPF 主宰) が2022年1月、ズームでの贈呈式が実施されました。

・ハザン省で続けられている**枯葉剤爆弾被害貧困家庭支援『仁愛の家』寄贈活動**はベトナムアンサンブル・チャリティーコンサートによる基金が目標通り創ることができませんでしたが、労働組合・連合の「愛のカンパ」助成を受け1軒の家庭に2023年1月に届けることになりました。

2022年度の支援活動は「円安」により大きな打撃をうけることになりましたが、多くの協賛をいただき活動継続することができました。

●日本キューバ連帯委員会 (CUBAPON) は

・2022年もキューバへの米国による制裁強化は着々と陰に陽に続けられています。

同時に2022年は石油備蓄タンクの火災やハリケーン災害が重なり、国内の経済状態の悪化が避けられず、厳しい状況になっています。観光が外貨収入の大きな柱であるキューバは「キューバ訪問」を呼び掛けていますが、現在、日本からの渡航には多くの制約が生じており訪問団も計画しながら延期という状況が未だ続いています。

・CUBAPONはキューバ支援の**緊急カンパ**を呼掛け、現在、230,000円ほどのカンパが寄せられています。**この活動は現在も継続されています。**



・明るい出来事もありました。年の瀬の12月、東京ドキュメンタリー映画祭で、CUBAPONで資金を呼掛けIFCC国際友好文化センターで制作したドキュメンタリー映像「そしてイスラの上となる～日系キューバ移民の記録」が上映されました。

左：ラミレス駐日キューバ大使からメダルを授与される君島 CUBAPON 共同代表委員 (2022/5/27)

東京ドキュメンタリー映画祭2022
Tokyo Documentary Film Festival 2022
2022.12.10 SAT ▶ 12.23 FRI 新宿K's Cinema

そしてイスラの上となる～日系キューバ移民の記録
長編3 そしてイスラの上となる～日系キューバ移民の記録 上映時間80分
上映日：12月10日(土)14:30 / 12月20日(火)16:15

製作：IFCC国際友好文化センター
協力：日本キューバ連帯委員会(CUBAPON)
1910年代、サトウキビ農園労働者として多くの日本人がキューバへと渡った。移民たちは、戦時中の強制収容、キューバ革命などをのりこえ、激動の20世紀を懸命に生き抜いていく。「最後の日系キューバ移民一世」といわれた島津二郎や日系二世らが、異郷の島(イスラ)から故郷日本への想いを語る。

監督のこぼれ
昔からそうなのですが、教科書に載るような大文字の歴史よりも、名も無き人々による小さな歴史の方に惹かれます。スペインからの独立に始まり、アメリカによる半植民地の時代を経て、革命を機に社会主義国家へと変貌するという大転機を繰り返した20世紀キューバ史の中で、小さなコミュニティに過ぎなかった移民達はどうか生活を営み、考え、行動したのか―彼等の心情に寄り添い、そして何かを感じ取っていただければ幸いです。

監督プロフィール
鈴木伊織
1964年、埼玉県に生まれる。日本映画学校卒業後、主に文化・教育分野のTVドキュメンタリー、企業PR等多岐製作。'90年代半ばより、自主製作によるドキュメンタリー作品の製作も開始。近作にベトナム戦争で使用された枯葉剤による障害者家族を扱った『トアとトクンへベトナム戦争の子ども達』がある。

上映館：新宿ケイズシネマ
〒160-0022
東京都新宿区新宿3丁目11-35-133F
TEL:03-3352-2471
FAX:03-3352-2472

DVD版のお求めは下記まで
●頒布価 ¥3,000 (送料込)
●IFCC国際友好文化センター
FAX:03-3268-6079
Email: jscxp@mail.plala.or.jp

・またCUBAPONは、キューバ諸国民友好協会(ICAP)よりICAP創立60周年を記念した「友好勲章」を授与されました。

資料 CUBAPON(クバポン)は困窮するキューバに「連帯の心を届けよう」と緊急カンパを呼び掛けてきましたが、CUBAPON会員以外の方々の協賛もお願いしたく、ご案内いたします。以下、キューバの現状です。

【支援・振込先】
郵便振替口座番号
00170-2-195919
口座名：日本キューバ連帯委員会

「今年キューバが被った二つの大きな自然災害がキューバ経済に与えた影響について発言します。キューバは、昨年から続く、経済封鎖、新型コロナ・パンデミック、インフレ、外貨不足、モノ不足のほかに、新たなヨーロッパでの国際危機が加わった中で、それでも今年度の半ばには、経済改革を進め、顕著な経済回復を見通せる状態でした。ところが、8月5日悪天候の中で落雷により**マタンサス石油備蓄タンク施設の火災**が発生し、施設の40%が破壊されました。隣接するアントニオ・ギテラス火力発電所も発電を停止し、大規模な停電も発生しました。火災による損害総額は数億ドルに上ると推計されます。消火作業にはメキシコ、ベネズエラから救援の専門家の支援を、ニカラグア、ドミニカ共和国、ボリビアから、食料支援を受けました。8月1日以降、全国各地で行われていた計画停電も、一層深刻となりました。その後、政府は、輸出促進政策、通貨整備を再開し、新型コロナ感染者数も一日二桁台に抑制することができ、経済の回復に取り組み始めましたが、9月27日、**大型ハリケーン「イアン」**が、ピナルデルリオ県に上陸、西部4県に甚大な被害を及ぼしました。9月27日、配電システムが損壊し、キューバ全土が停電。水道の供給も困難になりました。一般の家屋の被害は、10万戸以上に及び、タバコの生産にも甚大な被害がもたらされました。被害総額は、15億ドル以上と推定されます。8月のマタンサスの被害と合わせて被害は、20億ドル以上、GDPの4%に当たると考えられます。今回もメキシコ、ベネズエラ、アルゼンチン、EU、中国などから緊急の支援が行われました。キューバの政治指導者も、エコノミスト達も、一様に**90年代以降最大の危機**とっています。そうした困難な中で、医療、教育の基本的な無料制度を維持して、社会的暴動も起こさずに経済の回復に取り組み、引き続く北の巨人の圧力の中で主権と独立を維持しているキューバ国民の努力は、多大の敬服に値します。この未曾有の困難を切り抜けるのは、基本的にはキューバ国民の努力ですが、緊急支援としての私たちの経済支援も一助となります。何度も皆さんにお願いするのも恐縮ですが、近年まれな危機であることをご理解いただき、皆さんに経済支援を訴えるものです。」(「第7回全国キューバ友好の集い」(2022/11/30、CUBAPONも後援)での新藤通弘氏報告よ